

性感染症＝性行為（セックス）で感染する病気

性感染症の原因となる病原体（ウイルスや菌など）は、感染している人の精液や膈分泌液、血液に含まれていて、性行為で相手の粘膜に付着することで感染する。皮膚に傷口があると、そこから感染することもある。ときには口やのど、目にも感染することがあるけれど、これはオーラル（口腔）セックスで口に病原体が運ばれたり、病原体の付いた手で目をこすったりすることが原因だと考えられる。性感染症は1回のセックスでも感染することがあるから、要注意だ。

主な性感染症

- クラミジア感染症
- 淋菌感染症
- 性器ヘルペス
- 梅毒
- 尖圭コンジローマ
- HIV 感染症/エイズ
- 毛ジラミ症
- 膈トリコモナス症
- 外陰部カンジダ症 など



あなたとパートナーと赤ちゃんを守るための

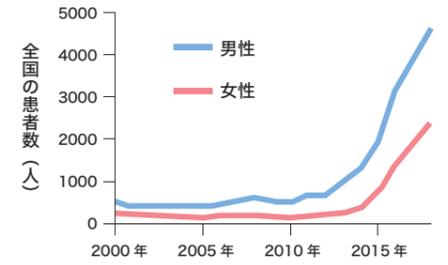
性と感染症の基礎知識



●「梅毒」急増中！

ここ数年、梅毒患者が急激に増えている。梅毒は放っておくと全身の器官がおかされるコワイ病気だ。しかも妊婦さんが梅毒にかかっていると、流産や死産になったり、赤ちゃんが重い病気になったりする。けれど、よく効く薬があるから治療すればちゃんと治る。パートナーも同時に治療することを忘れずに！

「梅毒患者数の推移」(2000年～2018年)

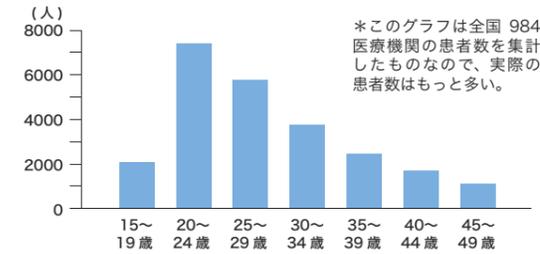


(厚生労働省 HP: 性感染症報告数より)

●クラミジア感染症と淋菌感染症

この2つは感染経路や症状が似ていて、両方に感染している人も多い。感染すると、男性は排尿時に痛みが出ることがある。女性は無症状で気づきにくく、無治療のままだと、不妊、子宮外妊娠、流産、早産の危険性が高くなる。さらに、出産時に赤ちゃんに感染して新生児結膜炎という目の病気や肺炎をおこすことがある。

「クラミジア感染症の年齢別発生動向」(2018年)



*このグラフは全国 984 医療機関の患者数を集計したもので、実際の患者数はもっと多い。

(厚生労働省 HP: 性感染症報告数より)

3つのキーワードで理解する性感染症の特徴

1 気づきにくい

感染しても症状が出なかったり、症状が軽かったりするので、自分が感染していることに気づかないことが多い。そのため、知らない間に人にうつしてしまったり、病気が進行して重症化することがある。

2 ピンポン感染

性感染症は、自分が感染していたら、セックスの相手も感染している可能性が高い。せっかく治療して治っても、相手も同時に治療しないと、相手から再度うつされる、ということがおこる。まるで卓球の球のように病気が行ったり来たりするから、ピンポン感染と呼んでいる。

3 母子感染

性感染症は自分と相手だけの問題ではない。女性の場合は無治療のまま妊娠すると、赤ちゃんも感染してしまうことがある。これを母子感染という。生まれてきた赤ちゃんは、重い病気になったり、障害を負うことがある。



「ここからは性感染症ではないけれど、赤ちゃんに異常をもたらすことがあるのでしっかり覚えてね！」

●風疹

「風疹」は「おたふくかぜ」や「麻疹(はしか)」などと同じように、子どもから大人までかかることのある身近な感染症です。その風疹が最近、30代～50代の男性を中心に流行して大問題になっています。1962年4月2日～1979年4月1日の間に生まれた男性は予防接種を受けていない人が多く、免疫を持っていないためです。同じく免疫を持たない妊婦さんが風疹に感染すると、赤ちゃんが先天性風疹症候群となり、難聴、心臓病、視力低下、発達障害などを

きたすことがあります。女性は自分の母子手帳などで風疹の予防接種を受けたかどうか確認して、接種していないのなら妊娠していない時に予防接種を受けましょう。

●サイトメガロウイルス感染症

サイトメガロウイルスはいたるところにいる、ありふれたウイルスで、唾液・尿・母乳や血液により、子どものうちに感染することが多いのですが、最近の日本の成人女性では既に感染し抗体(免疫)を持っている人は約70%しかいません。妊娠中に初感

染すると、流産・死産したり、赤ちゃんが脳障害や聴力障害をおこすことがあります。

●トキソプラズマ症

生肉、土、ネコの糞を介してトキソプラズマという寄生虫が口に入って感染する病気です。大人は感染しても症状が出ませんが、妊娠中に感染した場合は、赤ちゃんに胎内感染するリスクが高くなります。園芸家、ペットを飼っている人は手洗いを十分に、肉は十分過熱してから食べる、などを普段から行いましょう。

性感染症から身を守るには

1 気になる症状がある時は病院へ

性器にかゆみやブツブツがある、おりものが増えたなど、気になる症状がある場合は、すぐに医師の診察を受けよう。男性は泌尿器科・皮膚科・内科に、女性は産婦人科・皮膚科・内科に行けばいい。性感染症は治療すれば治るものがほとんどだ。でも、症状が出るのは性感染症の一部だから、心配なら検査を受けよう。保健所では相談にのってくれるし(電話も可)、性感染症の種類によっては無料で検査が受けられる。

2 感染リスクの低いセックスを選択する

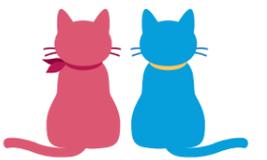
セックスの相手が多くなればなるほど、感染する危険性は高くなる。その意味では、セックスの相手は少ないほどいい。しかし、仮に相手が常に同じ人でも、その人が性感染症にかかっていたら…？オーラル(口腔)セックスは性感染症を口、のど、目にも広げる危険性がある。アナル(肛門)セックスは出血しやすく、感染の危険性を高める。こういうことを理解したうえで、より安全なセックスを選択しよう。

3 セックスの時はコンドームを使う

すぐに実行できる安全対策は、コンドームを使うことだ。パートナー同士で子どもを望んでいる場合は別だけど、そうでない場合は必ずコンドームをつけてセックスしよう。ただし、避妊と同じでコンドームをつけると100%感染しないという保証はない。理想を言えば、検査を受けてお互いに性感染症にかかっていないことを確かめておくことだ。

●エイズは過去のもの？

ノー！今もエイズウイルス(HIV)に感染する人はゼロではない。HIVに感染すると、数年～数十年かけて免疫力が落ち、いろいろな病気に繰り返しかかるようになる。この状態がエイズ(後天性免疫不全症候群)だ。以前は治療が難しかったけど、今では早めに治療を始めればエイズ発症を阻止できるようになった。ただし、治療はずっと続けなくてはいけない。妊婦さんが感染していても、予防対策をとれば赤ちゃんの感染を防止できる。HIV感染は検査しないとわからないので、検査を受けることが大切だ。



●性と感染症に関するwebサイト

【日本性感染症学会】

- ・大人が子どもに答えるQ&A
- ・あなたのためになる性感染症予防
- ・ストップ！梅毒



【日本産科婦人科学会】

- ・Human+
- (男と女のディクショナリー)



【性の健康医学財団】

- ・一般の方へ



【厚生労働省】・妊娠と感染症 ・性感染症

【国立感染症研究所】・母子感染 ・性感染症

「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキ」

編集・発行：HIV 母子感染予防研究班
 (正式名称) 令和元年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班 (研究代表者：喜多恒和)
 分担研究「HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」(研究分担者：桃原祥人)

発行日：2020年3月31日
 問い合わせ先：奈良県総合医療センター産婦人科 喜多恒和
 (HIV 母子感染予防研究班 <http://hivboshi.org/>)

印刷：芝サン陽印刷株式会社
 デザイン：株式会社ボンブワークショップ
 イラスト：P.U.M.P

私たちは Twitter で HIV をはじめとする性感染症に関する情報を発信しています。@HIVboshi で検索してね。